

(様式3)

自己評価結果票 こすもす倶楽部小町

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を重要事項説明書やユニット便り、広報誌に記載したり、また玄関の見やすい位置に掲示している。	○	地域密着型サービスとしての理念は、運営推進会議、また職員会議等で検討していく予定としている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時には、参加者全員で理念を唱和している。また、会議や機会があるたびにケアが理念に叶ったものになっているか、具体的に話し合っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月発行のユニット便りや、季刊誌に理念を掲載し配布することで、家族や地域住民に対する理解を図っている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣住民とは毎日の散歩で挨拶を交わしたり、収穫した果物や花を頂くなど友好的なコミュニケーションがとれている。季節に応じた野菜や果物の収穫を通し地域住民との交流も多い。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日々の散歩や季節ごとの地域行事、祭礼への参加も定着している。法人行事へも参加して頂いており、活発な交流に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者や職員は、地域行事などを通じて認知症の情報を提供している。また地域行事の際には職員が、認知症予防や身体機能向上のレクリエーションを提供し地域への貢献に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の前には必ず会議を開催し自己評価の記入や結果の公表、改善に向けた具体的な話し合いをしている。自己評価表は全職員が記入し評価するようにしており、また自由に閲覧できるようにファイルし、各ユニット入口に設置している		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員会メンバーにも自己評価表を閲覧して頂けるようにしている。評価後は会議で報告しメンバーに外部評価の意義と理解、サービスに対しての具体的な意見を求め、サービスの向上に取り組んでいる。		
9 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の案内や更新申請時には、必ず直接出向き、情報交換の場としている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての外部研修への参加、ホーム内での内部研修、勉強会、資料の配布を行い職員の知識習得に役立てている。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加、ホーム内での内部研修、勉強会、資料の配布を行い虐待や身体拘束に対する職員の意識啓発を図っている。事例はないが、同意書や経過書の整備はできている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時や契約解除に際しては、重要事項説明書や解約届に沿って、家族や本人に十分説明し、理解が得られるよう努めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者からの要望や苦情は聞き取り書にて受け付けている。また運営者や職員への周知を図り、改善策を講じることで利用者意見の尊重・生活への満足につなげている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ユニット便りを毎月発行し、個別の健康情報を担当者が手書きで記入している。また、日頃の様子や職員の異動・入退職なども、随時報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>本人同様に家族からも、苦情や要望聞き取り書を使用して対応している。また苦情がホーム内に滞らないよう運営者や運営推進会議などにも内容を公表している。(個人名には配慮) 第三者委員を設置し、家族への周知を文書にて行い、また入所契約時にも詳細を説明している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者は各ユニット会議や、勉強会には積極的に参加し、現状把握や職員の意見・提案を聴く機会を作っている。また週に複数回、ユニットで昼食を共に摂り職員・入居者との交流に努めている。毎月開催される法人幹部会議などを活用し、他部署からの意見収集にも心がけている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>外出や家族交流会などの行事や受診、また家族参加のケース会議出席のための担当職員の勤務形態の変更など、状況に応じて調整している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職時に備え日常的にユニット間の職員異動や、入居者同士の交流などを活発に行い馴染みの関係をホーム全体で築けるように努力している。また運営者は退職者や産休・育児休暇中の職員がいつでも訪ねて来られるような声掛けをしている。		
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員や異動後の職員には個別に教育・研修を実施している。また職員の習熟度に応じた内・外部研修への参加や専門資格取得を奨励している。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	周辺地区のホーム7カ所でネットワーク会議を定期開催し、情報交換や勉強会を実施している。今年度は管理者のみにとどまらず、全事業所からの職員が参加し、グループ討議を行うなど意義深い取組が実施された。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は週に複数回、ユニットで食事を共にし現状把握や職員との交流に努めている。また職員は順次運営者と食事をする機会があり、率直な意見や提案ができる席としている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課を3段階に分け実績と評価ができるだけ整合性の高いものになるよう工夫したり、施設内保育所を開設し、仕事と家庭の両立に配慮した取り組みを実践している。また新聞やテレビなどからの有効な情報が、随時閲覧できるよう資料提供を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前面接には、管理者と共に入居予定のフロアの職員が同行し、必ず本人に紹介している。また利用に関する不安や疑問などに対しては、見学を促したり、安心できるような言葉かけに努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>待機者に対しては定期的に連絡をし、本人の様子や状況、家族の思いを聴き取るようにしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時には、希望や必要性の沿ったフォーマル、インフォーマルなサービスの情報提供を行ったり、各関係機関との連携を活用した対応に努めている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前にホームへの事前見学や交流の機会がもてるよう支援している。共用型デイサービスの実施を計画しており、実施が叶えば入居時のダメージを軽減できると考えている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>生活歴や家族の話から、得意なことを主体性をもって行えるよう支援している。料理や裁縫、農作業など職員が学ぶ姿勢をもって接している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	電話やユニット便りで都度情報提供に努め、面会や家族交流会、旅行への参加を奨励している。また家族を交えたケース会議を行い、支援方法や提案を募るなど関係作りに取り組んでいる。		
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者本人が記した手紙を郵送したりと情報交換を行っている。面会時には家族と入居者が穏やかに過ごせるように、お茶を入れるなど、より良い家族関係が築けるように支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人などの面会を受け入れ、入居者がこれまで馴染んできた人間関係の継続に努めている。また自宅近くの地域で開催される催し物にも積極的に参加している。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	両ユニット間の気の合う入居者複数名で淑女倶楽部と称したサークル活動を行っている。サークルでは映画観賞や、裁縫、茶道などを行い入居者同士の関係向上、仲間作りを支援している。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去先に面会に行ったり、暑中見舞いや年賀状などを通じて、コンタクトを絶やさないよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>お茶やおやつなど日常の些細なことでも、可能な限り、希望を伺うようにしている。日常生活で苦情や要望がある際は文書として受付し、認知症によって訴えが困難な場合は、職員が本人の思いを代弁するかたちで、苦情・要望書を作成している。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>聞き取りシートにおける情報や面会家族から得られた話、また本人からの情報をもとにセンター方式シートに記入している。得られた情報を職員間で共有し本人の把握に努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々の観察や記録をもとに、変化時の対応を申し送ったり、ケース会議で現状課題や支援策を検討している。日内・週内変動が激しい入居者や不穏症状の出現頻度の高い方は特に緻密な記録をノートに記し伝達している。</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>プラン作成の際はケース会議を開催し、プラン立案には本人の強みや意向を必ず取り入れるようにしている。またモニタリングで課題を再検討している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアプランの見直し時期の一覧表を作成し、把握に努めている。見直し前の急激な状態変化には、プラン変更・見直しが遅れがちになっているが、まずケース会議を開催し、状況にあったケアを統一するようにしている。</p>	<p>○ ケース会議で検討されたケア項目については即座にプランとして立案し同意を得る。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートやケース記録、チェック表などを活用し、情報を共有している。また担当者はケース会議に向けて書式を工夫し、更に細かい情報収集を事前に行えるよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の特養利用者との交流が叶うよう支援している。またホームヘルパーの調理研修にキッチンを提供したり、地域住民との交流などにもホームを開放している。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	市の警察、消防署には定期的に挨拶に出向き協力を依頼している。また、民生委員の見学要請や学生の実習も受け入れている。		
41 他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	希望や必要に応じて福祉用具の購入や介護用品販売事業者へ訪問を依頼したり、医療保険でリハビリに定期通院している。		
42 地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の案内時や開催後など、地域包括支援センターからの様々な助言や提案をもとに、協働できる体制を整えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携はもちろん、整形や眼科、歯科など希望に沿った受診対応を実施している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医による診察が月に2回確保されている。また、状態変化に応じてメールや電話で報告し指示・助言が得られるようにしている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の特養の看護師や通所介護の看護師に、気軽に相談したり、様子観察を兼ねた交流も行えている。又、内部講師として専門知識・技術の研修にも協力が得られる。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	職員は、早期退院にむけて、退院後の生活注意点や通院頻度や介助方法など、必ず医師と話し合っている。退院直前にはケース会議を開催し、対応策やケア方法を確認するように努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	聞き取りシートには、終末期の要望があり本人・家族、その他親族からの思いを伺うようにしている。終末期への対応を家族と話し合っているもの、全ての家族から具体的な回答は得られていない。また実際の事例もない。	○	今後に備えて全ての家族と終末期におけるケアの方針を検討していく。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事例はないものの、重度化やターミナル期に対応するために、マニュアルの整備や緊急時の対応方法など内部研修を実施している。具体的な対応の方法や支援の限界については事例がないため、十分な検討はできていない。	○	重度化や終末期の対応については、重度化しても安心して過ごしていただけるように今後も慎重に検討を続けていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>ダイバーショナルセラピー - の実践に取り組み個別ケアを充実させている。実施内容を記録し年間評価も合わせて家族に説明している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の支払や管理能力に合わせて保管方法や買い物支援など多様に対応している。併設特養で開催されるホーム内ショッピングや移動販売業者によるパン販売など、お金を使う機会を提供している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ダイバーショナルセラピ - の計画は、個人または、グループでの希望に沿ったものになっている。買い物や外食、理美容や作業などアクティビティの幅を広げていることを意識している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日帰りバス旅行や夜桜見物、夜間外出にも取り組んでいる。個別の外出希望や、家族と外出しやすい環境を整えている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は居室に電話を持ち込み連絡を取り合っている。また、FAXやメールを活用し直筆文を送信できるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時には、気軽に声をかけ、遠慮なくお茶を飲んで頂いたり、居室以外にも会話が弾むような場所づくりを設定するようにしている。また食事や宿泊体制も整えている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止項目を職員ロッカー入口に掲示したり、外部研修や内部研修を通じて理解や知識の習得機会としている。事例はないが、同意書や対応経過書も整備している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	個別のリスクシートを作成し、家族の面会時にリスクとリスクのみに焦点を合わせたケアの弊害などについて説明している。また家族を交えたケース会議を開催し、リスクについて話し合いの場を設けている。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	日頃と違った状態や異変に気づいた際は、口頭で報告し合ったり、申し送りノートを活用し情報伝達や共有を図っている。	
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	服薬内容は一覧表に作成し、職員が見やすい場所に掲示している。また配薬から服薬までのマニュアルも作成し、適切な服薬の支援に努めている。定期薬の処方内容に変化があったり、疾病など一時的な内服薬においては、効能や副作用を辞書で調べ、ファイルに保管したり口頭で申し送るようにしている。	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	食事や飲み物の工夫、体操や散歩などの活動量の増加、腹部マッサージなど、状況に合わせた対応をしている。	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	朝と就寝前の口腔ケアは徹底できているが、昼食後に関しては、習慣的なものもあり拒否される場合も多く、うがいやお茶を飲むことを促す程度となっている。	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	摂取や水分チェック表に記入することで、1日または、ある一定期間の量を把握しやすくしている。必要な入居者には、詳細なチェック表を作成している。併設の管理栄養士に、献立に関する指導や助言をもらい、症状や体重変化に合わせた支援をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルを作成したり、時期に即した参考資料を回覧することで、予防や早期対応に備えている。入居者・職員ともにインフルエンザのワクチン接種は実施している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は買った日付や使用する日時を必ず記入している。調理器具等の衛生管理は、手順書を作成し、沿った方針で衛生管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や庭には花壇や畑を作り、近隣の風景と違和感のないように配慮している。また職員は近所を散策したり農作業をしている地域住民に、気軽に挨拶や声かけをするようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を認識できるような草花を生けたり、置物や飾りに工夫を凝らしている。食事の状況や日々の希望に応じて、テレビの音量も調節している。セミパブリックスペースには、歌集やアルバムなどを置いて工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のリビングもスペースを分け、気の合うもの同士で過ごせるよう配慮し、落ち着ける空間作りを目指している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 ○ たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

9名のユニットではあるものの、リビング内にセミパブリックスペースを数ヶ所設けており、気の合う仲間同士、個人の時間を過ごすスペースなど確保することで、入居者の方がお茶を飲んだり、テレビを観たりと自由な時間を過ごせるように支援している。ユニット内には認知症の軽度な方から重度な方と様々であるが、個々に応じたケアができるよう、ユニットだけでなくサークル活動などを通じてホーム全体で取り組んでいる。